

# 平成26年度 学校教育計画（年度末評価）

73 長野県塩尻志学館高等学校

教育理念	私たちは、常に新しい知識を希求する。そのため、日々の活動をとおして自己を研鑽し校風の発揚に努めることを決意し、次の事項を教育理念とする。 － 真理の探究   － 自他の敬愛   － 責任の完遂		
学校教育目標	(1) 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸ばさせる。 (2) 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 (3) マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。		
中期目標	①	ライフプランを確立させ、第一希望で進路実現させ得る組織的な学校づくり	総合評価 ・各部署からの評価結果は、評価A84%、評価B16%、評価C0%となり、各部署の年度当初の目標は、概ね達成できたといえる。 ・一層生徒の心に寄り添うとともに、さらなる学力向上に向けて努力したい。
	②	十分に体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり	
	③	授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり	
	④	地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり	
	⑤	知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究	
	⑥	特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究	

## 部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	中期目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題・改善策
教務	1. 授業・行事などあらゆる場面を通して効果的で魅力ある教育活動が展開できるよう、他部署・学年と連携し、円滑な学校運営に努める。	①③⑤	ア. 月暦・日課等の周知・徹底 イ. 授業研究・授業公開等の推進・サポート ウ. 各種研修の推進・サポート	A	・円滑な学校運営を行うことができた。 ・授業研究・授業公開については、来年度さらに充実させたい。
	2. 塩尻志学館高校および総合学科の魅力を中学校・保護者・地域に積極的に発信し、地域に愛される学校づくりに努めるとともに、高い意欲をもって本校を志願する生徒が増えることを目指す。	④⑤	エ. 公開授業および体験入学の充実 オ. 中学校訪問の充実 カ. Webサイトの活用 キ. 入学者選抜（前期選抜）の改善	A	・公開授業・体験入学については、来年度中学校との連携をさらに密にしたい。 ・Webサイトを通して積極的に外部へ情報を発信することができた。
進路指導	1. 学年・進路指導部に加え、系列による指導の体系化・組織化を図る。	①②⑤⑥	ア. 卒業時アンケート項目「進路希望が実現できた」に対する回答で「あてはまる・だいたいあてはまる」が8割以上。	A	・総研・キャリアデザの指導と連動して、自らの進路を具体的にイメージすることができた。 ・国立大学への進学指導について更なる研究が必要。
	2. 進路実現に向けて自ら積極的に行動できる生徒の育成を図る。	①②③④	イ. 補習授業（桔梗塾を含む）の出席率の増加。 ウ. 進路実績の向上。	A	・1年生からの模試対策・解説講座も開講され、早期からの意識付けが効果をあげている。 ・時間の軸を意識して能動的に行動できる力の養成が必要。
生徒支援	1. マナー・ルールの遵守 （「学校生活のしおり」の理解徹底） ①基本的な生活習慣の確立 ②服装・髪型等の身だしなみを整える ③携帯・スマホ利用：三原則の徹底 ④公共機関の正しい利用法の徹底	①②③④	ア. 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声かけを大事にする。 イ. 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラーの有効活用などで生徒や保護者を支援する。 ウ. HR担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。 エ. 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。	A	・『対話と共感』『自立と支援』を大事に考えた生徒支援・指導を、職員の理解と協力態勢のもと実践することができた。また、生徒一人ひとりが主体性をもって学校生活を送る中で、「自立心」が育まれるとともに「仲間や学校を大切に思う気持ち」となって行動に表れ、様々な行事の場面や日常の様子から成長した姿を見ることができた。
	2. いじめを出さない学校づくり ①いじめ三原則「しない・出さない・見逃さない」指導の重視 ②ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）の徹底	①②③④	オ. 交通安全指導を折りにふれて行ない、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。	A	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて年間2回の「学校生活に関するアンケート調査」を実施するとともに、個人面談や相談室の活用などを通じて、生徒の悩みや問題の解決に向けた支援を、多角的に行えた。

## 部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	中期目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題・改善策
キャリア教育推進	1. キャリア教育の充実	①②③④ ⑤	ア. 3年間の体系的な教育計画に基づき、各業務が運営できたか イ. 活動、まとめ、発表、討議の場を設け、生徒の主体的な活動に結びつけたか	A	・教育計画に基づき、若干の見直しを加えながら計画的に実施できた。 ・可能な限り、生徒の主体性の育成につながる活動を取り入れている。次年度も継続したい。
	2. 科目選択の充実	①②③⑥	ウ. 個々の生徒が、より自己にとって適切な科目選択ができるような指導体制の構築ができたか エ. 複数の段階的で有効な点検ができたか オ. 職員間での十分な検討の機会ができたか	A	・産社、CPの授業や科目選択交流会などを通じて、進路を考え、主体的な科目選択につながる取り組みを実施した。 ・複数の職員が段階的に点検できるよう提出用紙を工夫し、実際に点検できた。
	3. 将来構想への取り組み	④⑤⑥	カ. 本校の将来構想について、計画的な取り組みができたか キ. 職員間の討議の場を設け、本校のあるべき姿についての方向性を示すことができたか	B	・部活動等実績推薦制度について議論を行い結論を得た。 ・将来構想推進計画通りではなかったが、本校の現状を考えた検討内容について、検討段階に入れる準備を行った。
生徒会	1. 校歌を誇りを持って歌い、大きな声で気持ちよく挨拶ができるなど、全校生徒が志学館生として「自覚」を持ち、お互いに「絆」を感じる校風を築く。	①②⑤⑥	ア. 学校生活の中で、生徒会本部会、委員会、クラブ、地域活動等で各生徒の充実感や達成感を高める。 イ. 集会、壮行会等で全員が大きな声で校歌を歌い、挨拶等ができ志学館生としての自覚が持てる。	B	校内で元気よく挨拶できる生徒がやや減少してきたという指摘がある。愛校心を高めながら、校歌指導とともに粘り強く継続的に指導していく必要がある。
	2. 各委員が自覚と責任を持って仕事に参り組み、自主性を高める。	③④	ウ. 委員会活動における達成度合を上昇させられたか。	A	まだまだ不十分な点や個人差はあるが、全体的には自覚と責任を持って仕事に取り組む生徒になっている。
図書・視聴覚	1. 図書館運営の充実を図る。	①②③④	ア. 図書館運営の活性化が図れたか。 ・図書館利用者数(貸出数など) ・授業利用者数 ・レファレンス数 ・広報活動	A	・図書館利用の呼びかけを活発に行なったため、例年より本の貸出数が増加した。
	2. 視聴覚教育の充実を図る。	①②③④	イ. 視聴覚教室の利用促進が図れたか。 ウ. 芸術鑑賞の円滑な運営が図れたか。	A	・視聴覚室に新しいブルーレイが入り、多くの授業で使用していただいている。
保健厚生	1. 校舎内外の美化・清掃 強化	①⑥⑦	ア. ゴミの分別と減量化・生徒の取り組み強化(ゴミの捨て方・生徒の清掃態度)	B	・ゴミの分別の指導を徹底したい。 ・廊下のワックスがけを工夫したい。
	2. 検診のスムーズな運営と性教育・薬物教育の充実	①⑥⑦	イ. 保健委員会・職員の協力体制を確立する(事前の段取りに工夫があったか) ウ. 外部講師の精選と教育方法の研究する(教育後の生徒の感じ方)	A	・イ・ウについては、職員の協力を得てスムーズな運営ができた。
	3. 職員厚生の充実	⑥⑦	エ. ストレスの軽減とリフレッシュ行事推進	B	・実現可能なように予定を変更したが、諸事情により実現できなかった。
渉外	1. 学年・学級PTAの充実	⑤⑦	ア. 学年・学級PTAを開催する イ. 授業参観や講演会を企画する	A	予定通りに運営することが出来た。学校評価のアンケートも行った。
	2. 保護者との連携強化	⑤⑥⑦	ウ. PTA研修やPTA研修旅行を充実する エ. PTA通信を発行する	A	充実した研修旅行が実施できた。文化祭や強歩大会などでPTA活動が活発に実施された。
	3. 同窓会との連携	⑤⑦	オ. 同窓会活動への協力 カ. 大会出場生徒(北信越大会以上)への活動助成	A	学校と同窓会との関係がより深くなり、協力体制は整ってきた。

## 部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	中期目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題・改善策
1 学 年	1. 基本的な生活習慣の確立	①②	ア. 家庭との連絡が密にとれたか。 イ. 能率手帳を活用し生活習慣の意識付けができたか。	A	全般的には落ち着いた学校生活を送ることができている。前向きに学習する姿勢も一年間維持されてきた。不登校、欠席遅刻について各家庭と連絡を密に取り対応できた。更なる手帳の活用を模索していきたい。
	2. 学習習慣の確立	②③⑤⑥	ウ. 家庭学習の習慣化に向けてはたらきかけができたか。 エ. 学習意欲を高めさせ、科目選択への意識付けができたか。	A	定期的な課題帳の提出、週末課題、模試前後の補習等による働きかけをしてきた。進学を意識し学習に向かう姿勢も徐々に形成され、科目選択にも意欲的に取り組めた。今後も家庭学習を定着させる取り組みが必要。
	3. 相互理解を深める	②③④	オ. 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。	A	様々な行事を経験し、互いの個性を尊重できる姿勢が育まれてきた。「産業社会と人間」でのクラス内発表や学年発表で他の人の意見をしっかりと聞き尊重する姿勢が身につけてきている。
2 学 年	1. 進路意識の高揚	①②③⑤⑥	ア. 学習習慣の向上が図れたか。 イ. 資格取得への積極的なアプローチができたか。 ウ. 一人ひとりの学力・生活状況に応じた個別相談、助言ができたか。	A	全体的には落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいるものの、進路実現のための学力向上には引き続き個別指導が欠かせない。また、資格取得には意欲的な生徒が増えつつあるので、各教科から更なるアプローチをお願いしたい。
	2. 研修旅行の充実	①②③④⑥	エ. 事前学習を含め、進路を考える機会が与えられたか。 オ. 平和学習の充実が図れたか。 カ. 教師と生徒、生徒間の相互理解を深めることができたか。	A	事前、事後の学習も含め、上級学校見学・平和学習ともに計画通り実施できた。特に広島での被爆者の体験談や現地ボランティアガイドによる碑巡りは学習効果を一層高めるものとなった。生徒は貴重な時間を過ごすことができ、旅行の目的は概ね達成できたと判断する。
3 学 年	1. 最上級生としての自覚を持ち、リーダーシップを発揮できるよう支援をする。	①②⑤⑥⑦	ア. 日常生活が安定し、充実することができたか。 イ. 各種の学校行事が成功したか。	A	生徒会活動をはじめ、総合研究発表会などの学校行事においてもきわめて積極的に活動し、成功はもちろん、充実した日々を送ることができた。
	2. 個々の生徒が充実した高校生活を過ごし、その進路実現が可能となるよう指導・支援を続ける。	①②③④	ウ. 卒業生アンケートの満足度90%以上になったか。	A	達成することができた。(約95%)